

# 「探究的な学び」芽吹く

## 広島叡智学園高のパーソナルプロジェクト

広島県大崎上島町に開校し、4年目を迎えている県立の全寮制中高一貫校、広島叡智学園。国際的な教育プログラム「国際バカロレア(I.B.)」認定校として世界に通用するリーダー育成を目指す中、試金石となるのが、本年度スタートした高校の1年生が挑戦している「パーソナルプロジェクト」だ。I.B.の中等教育プログラムの集大成とされる活動を通じ、学園が進める「探究的な学び」の今に迫る。

(渡部公揮)



プロジェクトの成果物を披露する小花和さん(左)、黒木さん(中)、クアシーさん(右)

## 絵本で ■ パンフで ■ 製品で



未来創造科の授業で各自のプロジェクトを説明する生徒(7月)

られている。内部進学の子7人と、7カ国の留学生たち11人が4月から取り組んできた。

### 地域との連携も

「バレーボールのサーブが入りやすい角度を調べ、ルールブックを作る」「分子の結合を動画で分かりやすく説明する」…。社会課題の解決を考える科目「未来創造科」の授業で、生徒が各自のユニークなプロジェクトを説明した。

プロジェクトは、興味のあるテーマを独自の視点で研究し、成果物にまとめる活動だ。I.B.のプログラムの下で磨いてきた思考や自己管理、コミュニケーションといったスキルが求められる、節目に位置付け

成果物は論文や動画、ウェブサイトなどさまざま。小花和紗輝さん(15)は絵本を作った。「絶滅危惧種」について子どもが理解しやすい形を考えた結果で、同町近海にも生息するスナメリの窮状を知ったある兄弟が、海岸清掃に取り組む物語だ。スナメリがプラスチックごみなどの影響で減少している状況を反映させたといい、「環境問題

## スポーツ・環境・農業… 興味に沿い 独自視点で挑む

についても考えてもらいたい」と語る。

地域と連携した研究も目立つ。「無農業の魅力」をパンフレットにまとめた黒木碧恵さん(16)は、農業の影響についての実験などに加え、無農業栽培をする地元農家へのインタビューも行った。健康や環境に良いというメリットを確認する一方、農業が使われる背景には「見た目の良いものを購入しがちな消費者の意識が影響している」と問題提起した。

黒木さんはこれまでも独自に地元業者と連携。3月には町特産のレモンの葉を使った塩「Lemon Leaf Salt」を商売開発し、その過程で農業の在り方に興味を持ち研究を進めたという。「地域の人につきかけを与えてもらった。6年間を過ごす第二の古里で学びを深めたい」と力を込める。

### 海外進学に直結

生徒が成果物とともに提出するレポートでは、自ら定めた基準で取り組みを評価する。担当の徳田敬教諭は「活動を振り返り、今後の学びにどう生かすかという点も重視される」と説明する。

同町産のレモンの抽出物などで香水を作ったガーナ出身のナオミ・クアシー・アエコさん(15)は、プロジェクトを通じて「島の自然環境の良さ」を改めて実感したという。新たな目標として「地域の魅力を広めていきたい」と誓った。

1年生は11月の関係者向けのプロジェクト発表会を経て、来年1月からI.B.のディプロマ・プログラム(DP)を履修する。16〜19歳向けの2年間のカリキュラムで、最終試験などで所定の成績を収めると、海外大学への入学資格が得られる。福嶋一彦校長は「タフな学習が求められる。負荷を和らげる態勢をしつかり築きたい」と話す。